

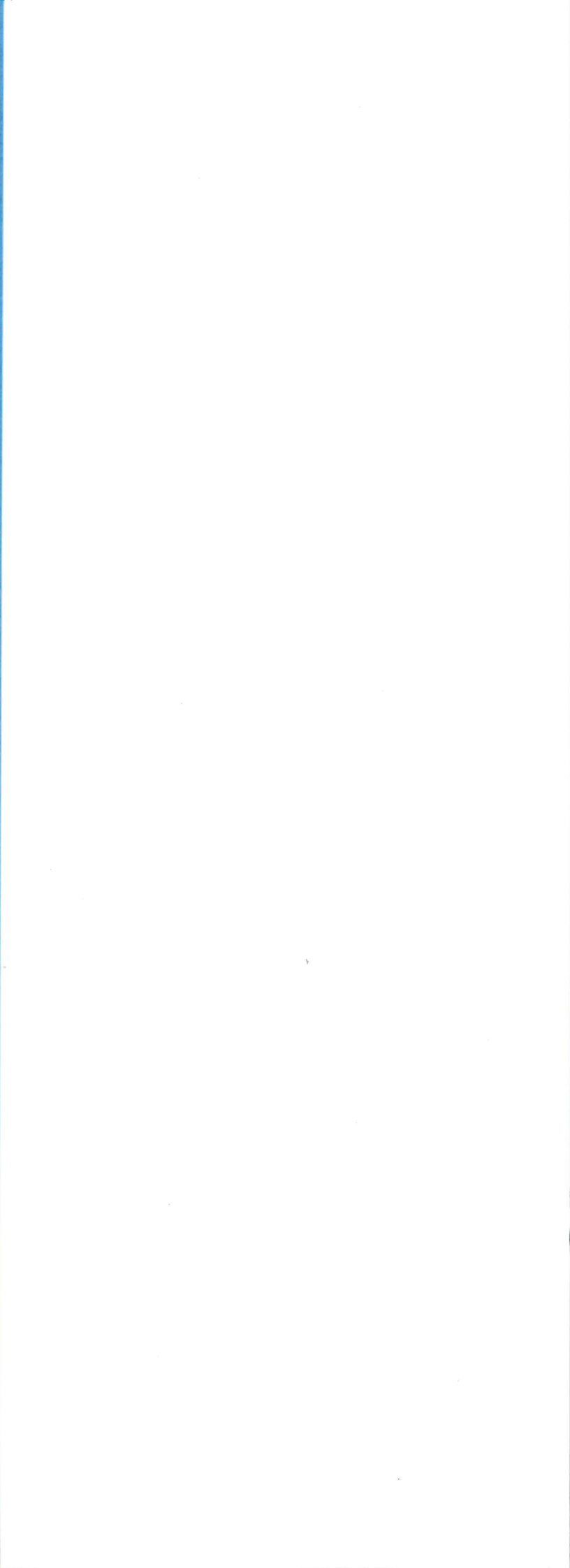
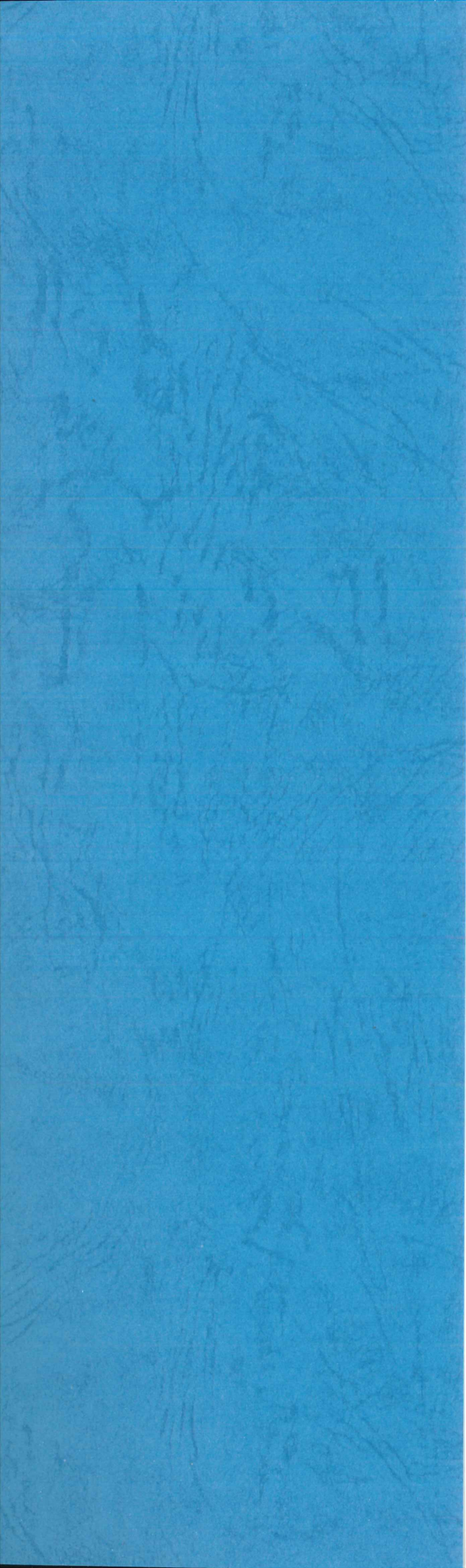
市道高倉大善寺線道路改築事業関連

田 中 遺 跡

— 発掘調査報告 —

平成18年 3 月

福島県郡山市教育委員会
磐前郡山市文化・学び振興公社



市道高倉大善寺線道路改築事業関連

た田 なか中 遺 跡

— 発掘調査報告 —

平成18年 3 月

福島県郡山市教育委員会
財団法人郡山市文化・学び振興公社

序 文

文化財は、地域の歴史、文化等の正しい理解を深める上で欠くことの出来ないものであり、地域文化の向上・発展の基礎となるものであることから、文化財を大切に保存し、次世代に継承していくことは極めて大切なことであります。

私たちの住む郡山市は、大正13年（1924）に市制を施行し、昭和40年（1965）に1市12町村の合併を経て、現在のかたちとなり、平成9年4月には、東北地方では、はじめての中核市へと移行し、東北有数の都市へと変貌を遂げ、現在も発展し続けております。

このような発展に伴い、近年、市内に約1,170箇所余り所在する埋蔵文化財包蔵地における開発が進み、市民の皆様の共有の財産である貴重な埋蔵文化財の現状保存が困難な状況になってきております。

郡山市教育委員会では、文献資料のない時代の本市の歴史や文化を解明する貴重な資料である埋蔵文化財を後世に残し、継承していくことは、現在に生きる私たちの大きな責務であるとの認識のもと、「郷土理解の深化を図るための文化遺産の保存と活用」を文化施策の重点目標に掲げ、埋蔵文化財を含めた文化財の保存と活用に努めているところであります。

本年度、郡山市教育委員会では、市道高倉大善寺線道路改築事業に伴い、事業区域内に所在する「田中遺跡」の一部が消滅するために発掘調査を実施し、当該遺跡の記録保存を行いました。

本書は、今回の発掘調査によって発見された貴重な埋蔵文化財の記録保存の成果のまとめであります。

本書が、今後、地域の歴史解明の基礎資料や研究資料として、広く皆様に活用していただきますとともに、本書を通して市民の皆様の「埋蔵文化財の保存と活用」についてのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

終わりに、発掘調査と報告書作成に御尽力をいただきました関係各位に対し、敬意と感謝を申し上げ、序文といたします。

平成18年3月

郡山市教育委員会

教育長 遠藤久夫

調査要項

遺 跡 名 田中遺跡（たなかいせき 福島県遺跡番号 0720301034）

所 在 地 福島県郡山市田村町小川字田中地内

調 査 期 間 平成17年7月15日～平成18年3月24日

調査主体者 郡山市教育委員会

調査委託者 福島県郡山市建設部道路建設課

調査担当者 財団法人 郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター（理事長 小針貞吉）

調 査 員 日下政勝 垣内和孝 押山雄三

調査参加者 五十嵐一美 植田健司 遠藤康晴 片桐光子 平栗恵子 細田美津子

整理参加者 國井イツ子 宗像美津子 永沢光枝 水野トク子 村上里子

調査協力者 吉田長四郎 吉田嘉松 佐藤春雄

助 言 協 力 福島県考古学会中近世部会

例 言

- 1 本書は、郡山市田村町小川字田中地内に所在する田中遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 この調査は、市道高倉大善寺線道路改築事業に伴う田中遺跡の記録保存のための発掘調査である。
- 3 本書に掲載した遺構図・遺物実測図のトレース・採拓は、整理参加者が分担して行った。
- 4 本書に使用した遺構写真は、日下と垣内・押山が分担して撮影した。また、遺物写真は日下が撮影した。
- 5 本書の執筆・構成及び編集は、第2章第1節は高橋、それ以外は日下が行った。

凡 例

- 1 本書に収録した遺構図は、1／100を基準縮尺とした。また、遺物実測図は適宜版面に合わせた縮尺とし、スケールを併示した。
- 2 遺構実測図中の方位は座標北を示したものである。
- 3 遺構実測図中の水系レベルは海拔高度を示したものである。
- 4 遺物実測図中のスクリーントーンは土師器は黒色処理範囲を示したものである。

本文目次

序	文	第2節	調査の経過と方法	4
調査要項		第3章	遺構と遺物	5
例言・凡例		第1節	基本層序	5
本文目次		第2節	掘立柱建物跡	5
挿図・表目次		第3節	柱列	7
写真図版目次		第4節	溝跡	10
第1章	位置と環境	第5節	土坑	13
第1節	地理的環境	第6節	ピット	13
第2節	歴史的環境	第7節	遺物	17
第2章	調査経過	第8節	まとめ	17
第1節	調査に至るまで		参考・引用文献	17

挿図・表目次

第1図	周辺地形図	2	第7図	1～8号溝跡	11
第2図	遺跡位置図	2	第8図	出土遺物(1)	14
第3図	遺跡全体図	6	第9図	出土遺物(2)	15
第4図	9・10号溝跡・3号谷断面図	6	第1表	周辺遺跡一覧表	3
第5図	1～3号掘立柱建物跡・2号土坑	8	第2表	グリッドピット計測表	13
第6図	4号掘立柱建物跡・1～6号柱列・1号土坑	9	第3表	出土遺物計測表	16

写真図版目次

図版 1

1. 2号溝跡全景（南側より）

2. 2号溝跡出土遺物（第8図4）

図版 2

1. 調査区西半全景（南側より）

2. 調査区東半全景（南側より）

3. 2号溝跡付近全景（南側より）

4. 3号谷東西断面（南側より）

5. 1号掘立柱建物跡全景（南側より）

6. 2号掘立柱建物跡全景（南側より）

7. 3号掘立柱建物跡全景（南側より）

8. 4号掘立柱建物跡全景（南側より）

図版 3

1. 6号柱列全景（東側より）

2. 1号土坑全景（南側より）

3. 2号溝跡俯瞰（東側より）

4. 1号溝跡北辺断面（東側より）

5. 2号溝跡西辺断面（南側より）

6. 2号溝跡東辺断面（南側より）

7. 2号溝跡南東角遺物出土状況（南西より）

8. 10号溝跡北端断面（南側より）

図版 4

1. 出土遺物（第8図1～9）

2. 出土遺物（第8図10～22）

3. 出土遺物（第8図6）

4. 出土遺物（第8図11）

5. 出土遺物（第8図15）

6. 出土遺物（第8図21）

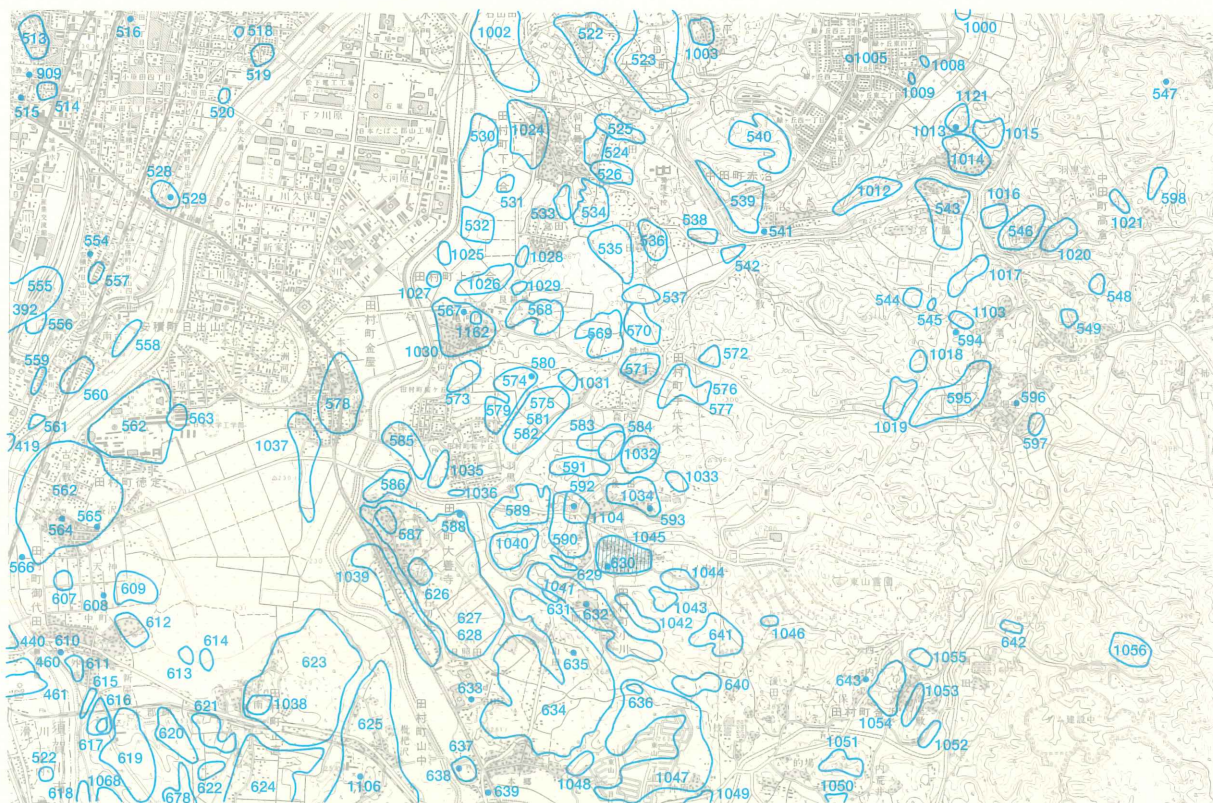
7. 出土遺物（第8図23）

8. 出土遺物（第9図34）

9. 出土遺物（第9図39）

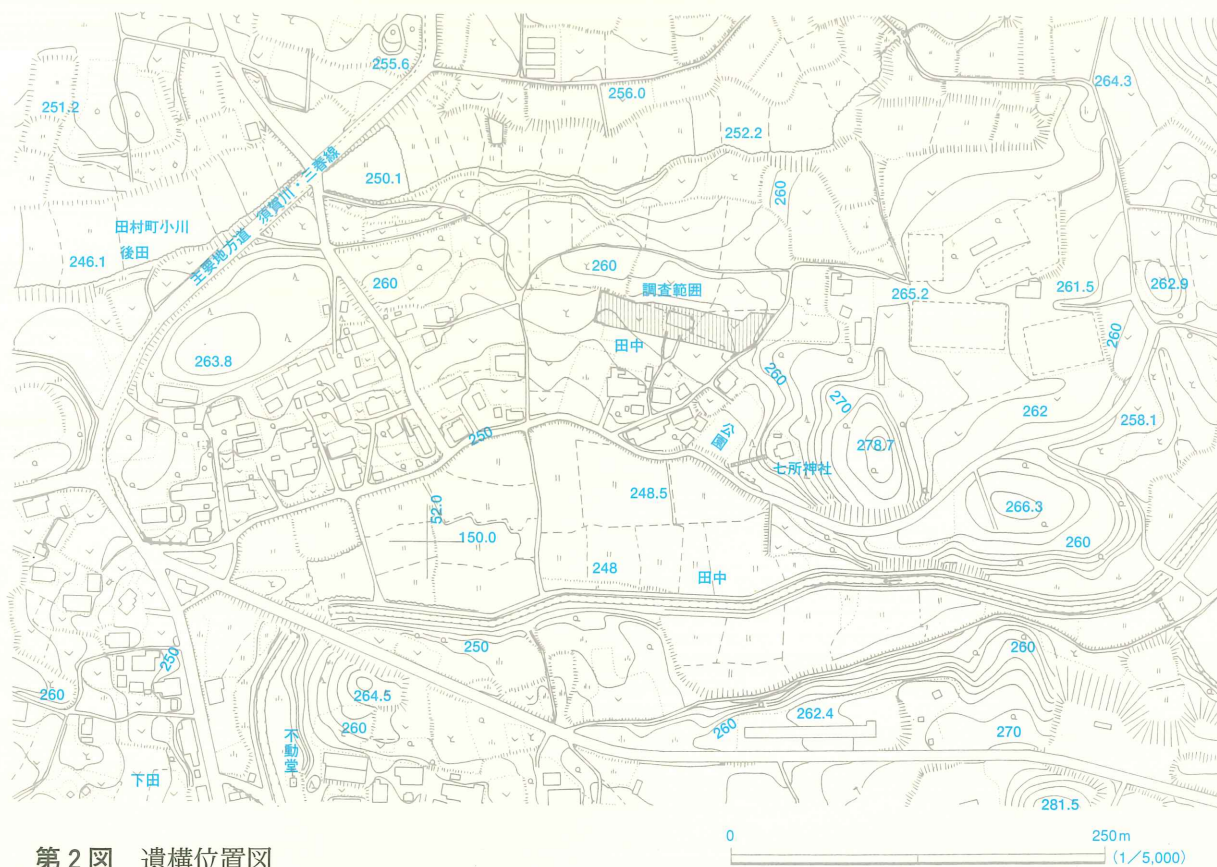
10. 出土遺物（第9図41～48）

11. 出土遺物（第9図44・45）



第1図 周辺地形図

(国土地理院 1:25000 地形図を半分に縮小)



第2図 遺構位置図

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

田中遺跡は福島県郡山市田村町小川字田中地内に所在する。

福島県は全国第3位の面積を有する大県で、太平洋沿岸域の浜通り地方、東北地方北部への連絡路である中通り地方、県域のほぼ西半を扼する会津地方の三地方から構成されている。

このうち中通り地方は、西の奥羽山脈と東の阿武隈山地に挟まれた南北約100kmの低地帯で、地質構造上は盛岡―白河構造線の一部に沿っており、ほぼ全域が県内を南北に貫流する阿武隈川の集水域にある。

中通り地方のほぼ中央部に位置する郡山盆地は、第三期末のグリーンタフ造山期に阿武隈山地と奥羽山脈の間に起きた相対的沈降作用によって形成された広範囲で不完全な断層盆地であり、本遺跡はこの郡山盆地の東方、老年期にある阿武隈山地から見れば樹枝状に解析の進行した西縁の丘陵上に位置する。周辺は安山岩質溶結凝灰岩や花崗閃緑岩を母岩とする地質構成であり、ローム層は未発達である。

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する郡山市田村町は遺跡が濃密に分布する地域である。旧石器が出土した宮田A遺跡をはじめ、縄文時代では東山田遺跡・山中日照田遺跡・鴨打A遺跡・倉屋敷遺跡・鴨打B遺跡・妻見塚遺跡・赤沼遺跡・北山田遺跡・小川後田A遺跡などが挙げられる。

弥生時代の遺跡は、下永田B遺跡・正直B遺跡・大安場古墳群などで集落が確認されている。

古墳時代の遺跡としては、まず、東北地方最大の前方後方墳である大安場古墳群の1号墳が有名である。付近には大善寺古墳群・南山田古墳群・妻見塚古墳群・蝦夷穴古墳群・正直古墳群などの古墳があり、集落では山中日照田遺跡や南山田遺跡・永作遺跡・鴨打A遺跡・妻見塚遺跡などが存在する。

奈良時代では西に隣接する小川後田A遺跡や東山田遺跡があり、東山田遺跡では平安時代にも集落が営まれることが発掘調査で判明している。

中世の遺跡は、赤沼遺跡・宮田A・B遺跡・長耕地A・B遺跡があり、戸ノ内や岡市などの供養塔も分布している。また、本遺跡の東に祀られる七所神社の裏山出土と伝えられる和鏡が市史に記載されており、同所は経塚に指定されている。

近世では南方に守山城跡があり、戦国大名蒲生氏の築造と考えられる石積で知られる。

第1表 周辺遺跡一覧表

20300392	廣町遺跡	奈良	20300573	城山館跡	中世	20300642	大六遺跡	縄・古～平
20300419	洪清水遺跡	縄文	20300574	南山田古墳群	弥生～平安	20300643	大六古墳	古墳
20300440	経蔵遺跡	弥生	20300575	永作遺跡	古墳～平安	20300678	物見段遺跡	奈良・平安
20300460	境橋遺跡	奈良・平安	20300576	無ノ草遺跡	縄文	20300909	香久池経塚	近世
20300461	陣場遺跡	古墳～平安	20300577	鴨打A遺跡	縄・古・平	20301000	原掛遺跡	中世・近世
20300513	七ツ池遺跡	奈良	20300578	平館跡	中世	20301002	御膳前遺跡	平安
20300514	香久池遺跡	弥生	20300579	南山田遺跡	弥生～平安	20301003	大平遺跡	平安
20300515	法久寺供養塔群	中世	20300580	かぶつ壇古墳	古墳	20301005	石作A遺跡	縄・奈～中
20300516	小原田供養塔	中世	20300581	永作B遺跡	古墳～平安	20301008	猫田D遺跡	縄文
20300518	早水館跡	中世	20300582	川久保遺跡	古墳～平安	20301009	猫田B遺跡	平安
20300519	野毛館遺跡	古墳～平安	20300583	妻見塚遺跡	古墳～平安	20301021	下川原遺跡	平安
20300520	鹿島館跡	縄・奈・平	20300584	妻見塚古墳群	古墳	20301013	台供養塔	中世
20300522	大平後田遺跡	古墳～平安	20300585	宿遺跡	奈良・平安	20301014	萩平遺跡	平安
20300523	中道遺跡	古墳～平安	20300586	東遺跡	奈良・平安	20301015	茂平前遺跡	平安
20300524	栴壇古墳群	古墳	20300587	西館跡	中世	20301016	古御館跡	中世
20300525	下永田B遺跡	縄文・平安	20300588	羽黒堂塚		20301017	井戸神遺跡	縄文
20300526	下永田A遺跡	縄・古～平	20300589	羽黒堂A遺跡	縄文～平安	20301018	行人坦遺跡	奈良・平安
20300528	宮西遺跡	古墳～平安	20300590	下田遺跡	奈良・平安	20301019	深谷遺跡	奈良・平安
20300529	二渡神社供養塔群	中世	20300591	小川後田A遺跡	縄・奈・平	20301020	高倉上館跡	中世
20300530	正尊遺跡	古墳～平安	20300592	後田古墳群	古墳	20301021	古内遺跡	奈良・平安
20300531	下中内遺跡	古墳～平安	20300593	七所神社経塚	中世	20301024	前田遺跡	平安
20300532	宮田A遺跡	旧・古～平	20300594	オサン壇塚		20301025	宮田C遺跡	平安
20300533	五朗内遺跡	古墳～平安	20300595	下羽広遺跡	縄文	20301026	宮田B遺跡	平安
20300534	中井田A遺跡	古墳～平安	20300597	畑中壇塚		20301027	宮耕地遺跡	奈良・中世
20300535	中井田B遺跡	古墳～平安	20300598	古内館跡	中世	20301028	良耕地D遺跡	平安
20300536	中井田C遺跡	古墳～平安	20300607	御代田廃寺跡	中世	20301029	良耕地C遺跡	古墳～平安
20300537	大島遺跡	古墳～平安	20300608	狐坦古墳	古墳	20301030	亀河内遺跡	古墳～中世
20300538	杉並遺跡	古墳～平安	20300609	狐坦遺跡	古墳～平安	20301031	館遺跡	中世
20300539	赤沼遺跡	縄・古～平	20300610	甚日寺供養塔群	中世	20301032	手代木中林遺跡	平安
20300540	赤沼館跡	中世	20300611	御代田館跡	中世	20301033	小川後田B遺跡	平安
20300541	赤沼供養塔	中世	20300612	綿掛場遺跡	奈良・平安	20301034	田中遺跡	平安・中世
20300542	倉屋敷遺跡	縄文・平安	20300613	西田B遺跡	奈良・平安	20301035	大安場古墳群	古墳
20300543	宮ノ脇遺跡	縄文	20300614	西田A遺跡	奈良・平安	20301036	羽黒堂B遺跡	平安
20300544	大壇塚群		20300615	御代田B遺跡	弥生	20301037	水神遺跡	平安
20300545	行人壇塚		20300616	御代田城跡	中世	20301038	正直館跡	中世
20300546	高倉中館跡	中世	20300617	御代田古墳群	古墳	20301039	鬼越遺跡	平安
20300547	源海壇塚群		20300618	一ノ沢遺跡	縄文	20301040	中山田古墳群	古墳
20300548	般若壇塚		20300619	中林遺跡	縄・弥・平	20301041	岡市B遺跡	平安
20300549	高倉弘法壇塚		20300620	権現作田B遺跡	弥・奈・平	20301042	戸ノ内A遺跡	平安
20300554	日出山供養塔	中世	20300621	正直A遺跡	古墳～平安	20301043	戸ノ内B遺跡	平安
20300555	荒井猫田遺跡	縄文～近世	20300622	権現作田A遺跡	縄・奈・平	20301044	戸ノ内C遺跡	平安
20300556	道場遺跡	奈良・中世	20300623	正直B遺跡	縄文～平安	20301045	小川館跡	中世
20300557	南千保遺跡	縄文～古墳	20300624	正直C遺跡	縄・奈・平	20301046	ヤシウリ塚群	
20300558	旧屋敷遺跡	縄文	20300625	枇杷沢A遺跡	縄文～平安	20301047	東山田遺跡	古墳～中世
20300559	西篠原遺跡	弥生	20300626	東館跡	中世	20301048	東山田塚群	
20300560	東笹原遺跡	平安	20300627	大善寺古墳群	古墳	20301049	中原遺跡	平安
20300561	淵の上遺跡	縄文・古墳	20300628	山中日照田遺跡	弥生～平安	20301050	内荒井B遺跡	平安
20300562	徳定A・B遺跡	縄文～平安	20300629	蝦夷穴横穴墓群	古墳	20301051	内荒井A遺跡	平安
20300563	金屋館跡	中世	20300630	小川供養塔	中世	20301052	田仲遺跡	縄文
20300564	徳定供養塔群	中世	20300631	下田横穴墓群	古墳	20301053	田仲塚群	
20300565	阿弥陀堂供養塔群	中世	20300632	岡市供養塔	中世	20301054	高屋敷B遺跡	平安
20300566	石仏供養塔群	中世	20300633	山中供養塔	中世	20301055	高屋敷A遺跡	平安
20300567	亀河内供養塔群	中世	20300634	上野遺跡	古墳～平安	20301056	金沢銀山跡	近世
20300568	北山田古墳群	古墳	20300635	聖人壇塚		20301068	陣日向遺跡	平安
20300569	三斗蒔遺跡	古墳～平安	20300636	山田遺跡	古墳～平安	20301103	高倉栗遺跡	縄文
20300570	北原遺跡	縄文・平安	20300637	田村神社遺跡	古墳～平安	20301106	下原古墳	古墳
20300571	栴内遺跡	縄文～平安	20300638	善法院跡		20301121	台遺跡	縄文
20300572	鴨打B遺跡	縄文	20300639	前田供養塔	中世			

第2章 調査の経緯と概要

第1節 調査に至るまで

市道高倉大善寺線改築事業に伴い、郡山市田村町小川字田中地内に所在する田中遺跡の一部が開発対象になったことから、郡山市建設部道路建設課から郡山市教育委員会文化課へ調査の依頼があった。

田中遺跡は、県道須賀川三春線の東側に位置する埋蔵文化財包蔵地で平安時代の散布地として周知されている。また、同遺跡の南東部分には、七所神社経塚が重複して所在する。

市道高倉大善寺線改築事業では、今回の調査区の西側に当たる、小川後田A遺跡の発掘調査を平成16年度に実施している。

郡山市教育委員会は、平成17年3月1日から3月2日にかけて、7,676㎡を対象に試掘確認調査を実施した。試掘確認調査の結果、住居跡、ピット、溝跡等の遺構や土師器片等の遺物が調査区全体に検出されたため、調査区7,676㎡を要保存範囲とした。郡山市教育委員会と郡山市建設部道路建設課との協議の結果、7,676㎡を記録保存のための発掘調査を実施することとした。市道高倉大善寺線改築事業の進捗状況と面積の関係から、今回は、開発範囲の中央部分、2,352㎡の発掘調査とすることとした。

郡山市教育委員会は、平成17年7月15日付けで財団法人郡山市文化・学び振興公社に発掘調査を委託した。委託期間は平成17年7月15日から平成18年3月24日として、屋外業務は平成18年1月24日に終了し、整理業務は平成18年3月24日報告書刊行をもって終了した。本報告書は、その発掘調査による成果をまとめたものである。

第2節 調査の経過と方法

平成17年10月11日 草刈りを実施して杭を確認する。教育委員会と現地にて打ち合わせ。

10月13日 重機による調査区西半の表土除去を開始する。午後より精査開始。

10月19日 遺構の掘り込みを開始する。

11月24日 調査区西半のラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施する。

12月5日 重機による調査区東半の表土除去を開始する。

平成18年1月5日 新年の調査が雪かきから始まる。

1月12日 調査区東半のラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施する。

1月24日 3谷Ⅶの掘り下げ終了。遺構の存在が無いことを確認して調査終了。

重機による埋め戻しを開始する。

今回の調査範囲における座標軸は日本測地系Ⅸ系を用い、基準点は点名P.47 (x=150150.503

y = 52182.116) と点名 2 T-29 (x = 150117.893 y = 52121.775 z = 253.646) である。測量および遺構の実測は、基準点座標を元に光波式測距儀を用いた。また、採図は 1/20 縮尺を基本とし、本報告では 1/100 まで縮小した。遺構の撮影では 35mm 一眼レフカメラとデジタルカメラを使用した。

第 3 章 遺構と遺物

第 1 節 基本層序

今回の調査では、調査範囲内から南方の低地に向けて三本の小さな解析谷があり、これらは概ね共通の土層堆積状況を示していたことから、基本層序として設定した。各土層の状況は以下の通りである。

- I. 表土
- II. 黒色土……炭化物粒・白色微粒が微量に混入。2 号谷ではややシルト質。土器片を含む。
- III. 黒褐色土……炭化物粒・白色微粒が微量に混入している。土器片を含む。
- IV. 茶褐色土……暗黄色火山灰を主体とし、乾燥するとサクサクする。
- V. 黒褐色土……黒色土と IV の混合土。やや粘性がある。
- VI. 黒色土……シルトを主体とし、粘性が強い。
- VII. 淡黒色土……粗粒シルト。
- VIII. 淡黒褐色土……VII より茶色を帯びた色調で、塑性が少しある。
- IX. 暗黄色土……粗粒シルト。

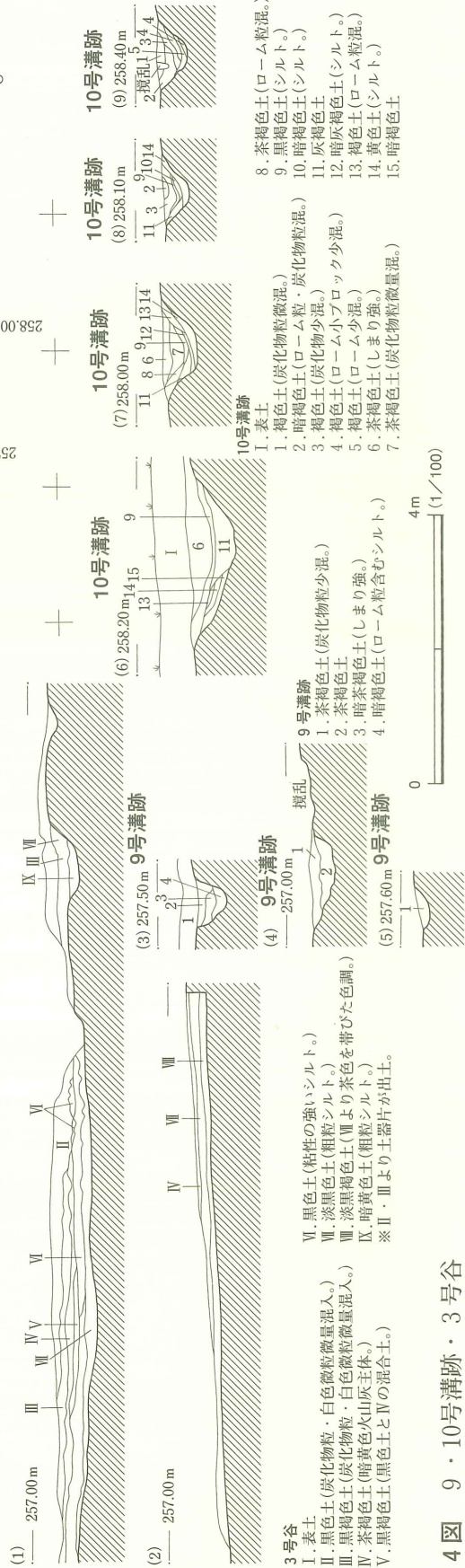
第 2 節 掘立柱建物跡

1 号掘立柱建物跡 (第 5 図 図版 2-1・5)

調査区西側部分 O-12 グリッドの 1 号谷 L II 面で検出した長軸 2 間×短軸 2 間の平面形の建物跡である。規模は長軸総長 504cm、短軸総長 312cm 以上で、棟方向が南北ならば N1.5° W、面積は 15.7 m² (4.8 坪) 以上を想定する。本建物跡は検出面が L II 面であることから、古代以降の時期に属すると考える。柱穴内からの出土遺物は無かった。

2 号掘立柱建物跡 (第 5 図 図版 2-1・3・6)

調査区西側部分 O-14・15 グリッドで検出した桁行 3 間×梁間 2 間の東西棟である。規模は桁行総長 673cm、梁間総長 382cm、N89° E、面積は約 25.7 m² (約 7.8 坪) で、P.2 が 2 号土坑に上部を切られる。出土遺物から、古代以降の時期に属すると考える。遺物は細片のために図示できなかったが P.2 から土師器片が 1 点出土した。口縁部が逆「ハ」字状に開く坯の体部下端部位とみられ、回転ヘラケズリが施された白色胎土の破片資料である。



第4図 9・10号溝跡・3号谷

3号掘立柱建物跡 (第5図 図版2-7)(第8図-26)

調査区西側部分O・A-15グリッドで検出した3間×3間の建物跡である。規模は南北総長561cm、東西総長567cmで、4辺がほぼ東西南北に沿う。面積は約28.5㎡(約8.6坪)である。また、北側に東西方向の2号柱列があり、西側には南北方向の3号柱列を同時に検出したが、本建物跡のそれぞれの辺とほぼ平行する位置関係にあることから、これらが付帯施設であった可能性がある。出土遺物から、本建物跡と2・3号柱列は平安時代のものであると考えられる。遺物はP.7から土師器坏の体部下端部位片が1点出土した。内面に黒色処理、外面に回転ヘラケズリが施された破片資料である。

4号掘立柱建物跡 (第6図 図版2-8)

調査区東側部分A-1グリッドの地山ローム面で検出した2間×2間の建物跡である。規模は長軸総長378cm、短軸総長336cmで、長軸方向N82°W、面積は約12.4㎡(約3.7坪)である。本建物跡北側の6号柱列は、軸線が建物跡の北辺に沿うので関連施設と考えられる。遺物は出土しなかった。

※建物跡の坪面積は1坪=3.3㎡で計算したものである。

第3節 柱 列

1号柱列 (第3・6図 図版2-1・3)

調査区西側1号谷部分O・A-14グリッドのLⅡ面で検出した。南北方向にほぼ直線に並ぶ4基のピットで構成され、P.1～4の芯間全長は588cmである。位置的に2号または3号建物跡の関連施設であったと考えられる。遺物は出土しなかった。

2号柱列 (第3・6図 図版2-1)

調査区西側O-15グリッドで検出した。南北方向に並ぶ3基のピットで構成され、P.1～3の芯間全長は485cmである。位置的に3号建物跡の関連施設であったとみられる。遺物は出土しなかった。

3号柱列 (第3・6図 図版2-1)

調査区西側O-15グリッドで検出した。東西方向に並ぶ4基のピットで構成され、P.1～4の芯間全長は483cmである。位置的に3号建物跡の関連施設であったとみられる。遺物は出土しなかった。

4号柱列 (第3・6図 図版2-1)

調査区中央南端B-18グリッドの3号谷LⅢ面で検出した。南北方向に並ぶ4基のピットで構成され、P.1～4の芯間全長は約380cmである。遺物は出土しなかった。

5号柱列 (第3・6図 図版2-1)

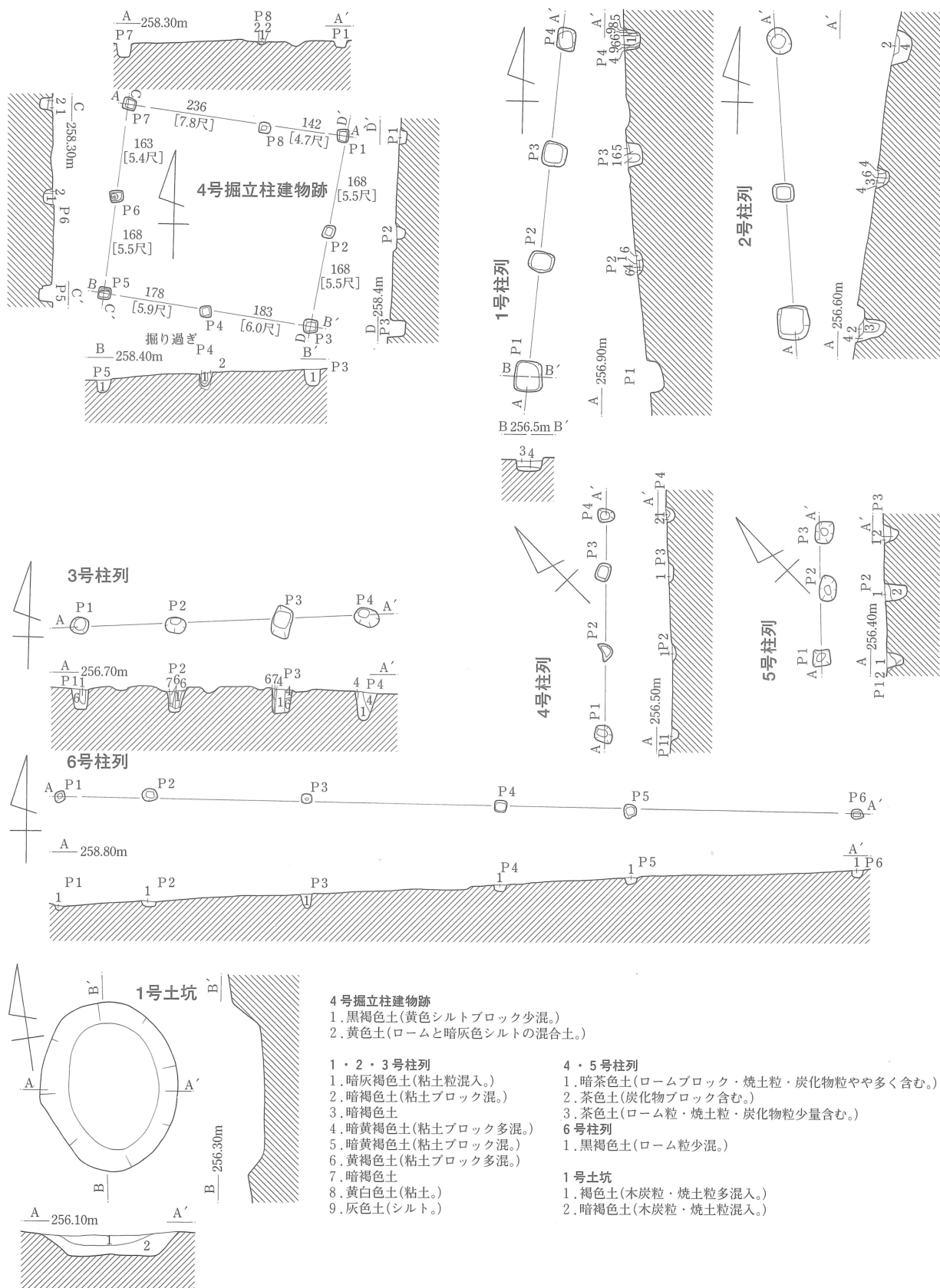
調査区中央南端B-18グリッドの3号谷LⅢ面で検出した。南北方向に並ぶ3基のピットで構成され、P.1～3の芯間全長は約222cmである。遺物は出土しなかった。

6号柱列 (第3・6図 図版2-1)

調査区北東部A-1～3グリッドで検出した。東西方向に並ぶ6基のピットで構成されるが、調査区外にも及ぶと考えられるため、全容はP.1～6の芯間全長776cmを下限とする。位置的に4号建物跡の関連施設であったとみられる。遺物は出土しなかった。



第5図 1～3号掘立柱建物跡・2号土坑



第6図 4号掘立柱建物跡・1～6号柱列・1号土坑

第4節 溝 跡

1号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区西側O-13グリッドで検出した。検出面は地山面、残存寸法は全長624cm、最大幅88cm、検出面からの最深22cmを測る。断面観察では1層の堆積土に粘土ブロックが多く混入していたことから人為的に埋められたと判断した。また、明瞭な重複関係には無いものの、隣接する2号溝跡とは軸線や堆積土が近似することから、2号溝よりやや先行する時期の可能性が考えられる。遺物は出土しなかった。

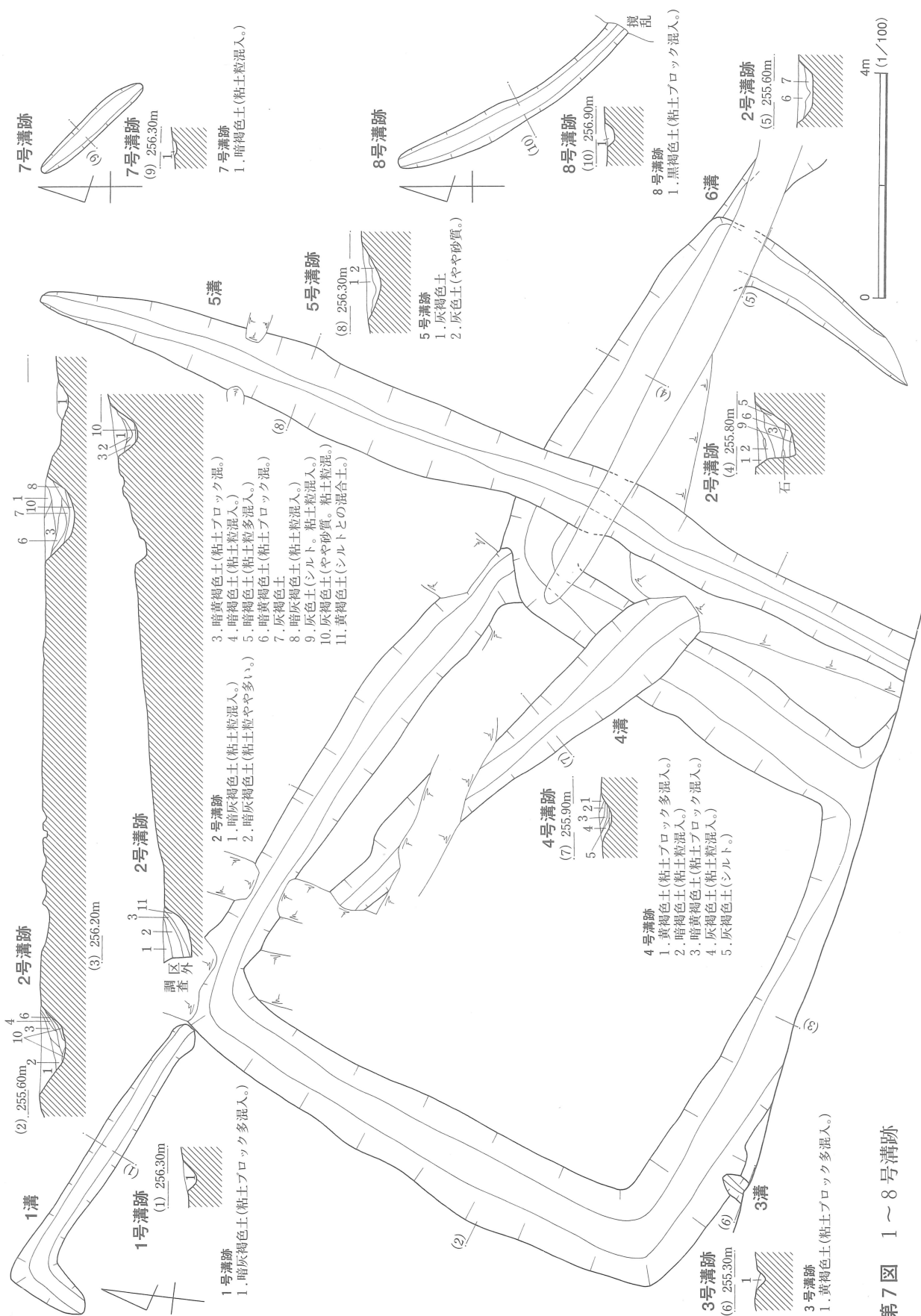
2号溝跡（第3・7図 図版2-1・3）（第8図1～21・23 図版4-1～7）

調査区西側O～B-13～15グリッドで検出した。検出面は地山面で、遺構南部分が調査区外に及ぶために全容は明らかでないものの、東西方向に方形「8」字状の平面形を呈する。残存寸法は西側方形部分の溝に囲まれた部分で東西長802cm、南北長792cm、東側方形部分の溝に囲まれた部分で東西長581cmを測る。溝最大幅は西側方形部分の北・西・南・東の各辺で128cm・159cm・154cm・151cm、東側方形部分の北・東の各辺は上部に攪乱を受ける。検出面からの最深は西側方形部分の北・西・南・東の各辺で42cm・44cm・47cm・52cmを測る。断面観察では11層の堆積土がみられ、底面から⑦まではシルトを薄く含むことから自然に堆積したとみられ、上層は粘土ブロックなどの混入物により、後に人為的に埋められたと判断した。周辺遺構との重複関係は、15号ピットを切り、3号溝跡と同時期で、4・5号溝跡に切られる。本溝跡の帰属年代は、底面から出土した遺物から、12世紀末～13世紀前葉を考える。

かわらけ23点と須恵器甕2点が出土し、かわらけの全てを図示した。かわらけの出土傾向として、北西角から西辺を経て南西角にいたる所謂西側部分に10点が集中している。制作技法は23を除いた全個体が手捏ね成形であり、法量の大きい個体は底部から体部中位まで丸く立ち上がり、体部中位からは直線的に口縁部に至る形状をとる。これらは概して口縁部外面が爪などにより段状に整形される特徴を有し、底部内面が板状工具（ハケ若しくは櫛とみられる。）による調整の後にユビナデされた個体が多くみられる。また、法量の小さい固体は丸く立ち上がった後に口縁部付近が軽く摘み上げられ、外面が面取りされた形状になる。一方、ロクロ成形の23は体部下端から口縁部まで直線的に立ち上がり、口縁端部が軽く摘み出される。内面底部周縁が強く押されながら調整され、厚く成形された底部が特徴的である。

3号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区西側A-13グリッドで検出した。検出面は地山面、残存寸法は全長50cm、最大幅36cm、検出面からの最深21cmを測る。断面観察では1層の堆積土に粘土ブロックが多く混入していたことから人為的に埋められたと判断した。断面観察から2号溝跡と同時期と考えられる。遺物は出土しなかった。



第7図 1～8号溝跡

4号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区西側A-13・14グリッドで検出した。検出面は地山面、残存寸法は全長815cm、最大幅119cm、検出面からの最深15cmを測る。断面観察では5層の堆積土があり、粘土ブロックや粘土粒が混入していたことから人為的に埋められたと判断した。2号溝跡を切ることから、中世以降のものと考えられる。遺物は出土しなかった。

5号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区西側O・A・B-14グリッドで検出した。検出面は地山面、残存寸法は全長1,668cm、最大幅126cm、検出面からの最深31cmを測る。断面観察では2層の堆積土があり、シルト混入層がレンズ状の形状を呈することから自然に埋没したものと判断した。2号溝跡を切ることから、中世以降のものと考えられる。遺物は出土しなかった。

6号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区西側A-15グリッドで検出した。検出面は地山面、残存寸法は全長212cm、推定最大幅78cm、検出面からの最深13cmを測る。断面観察では1層の堆積土が認められたが、激しく攪乱を受けており、埋没に至った原因は不明である。2号溝跡に切られる。遺物は出土しなかった。

7号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区西側A-15グリッドで検出した。検出面は地山面、残存寸法は全長234cm、最大幅39cm、検出面からの最深6cmを測る。遺物は出土しなかった。

8号溝跡（第3・7図 図版2-1）

調査区中央南端B-17グリッドで検出した。検出面は地山面、遺構南端が調査区外に及ぶために全容は不明である。残存寸法は全長464cm以上、最大幅54cm、検出面からの最深18cmを測る。遺物は出土しなかった。

9号溝跡（第3・4図 図版2-2）

調査区中央A・B・C-19・20グリッド、3号谷で検出した。検出面はLⅡ面、遺構両端が調査区外に及ぶために全容は不明である。残存寸法は全長2,086cm以上、最大幅125cm、検出面からの最深39cmを測る。遺物は出土しなかったが、周辺のLⅡから古代の土師器や須恵器が出土していることから、古代以降のものと考えられる。

10号溝跡（第3・4図 図版2-2・3-8）（第8図-29・第9図-39・40 図版4-9）

調査区東側A・B・C-20・1グリッドで検出した。検出面は地山面、遺構両端が調査区外に及ぶために全容は不明である。残存寸法は全長2,161cm以上、最大幅151cm、検出面からの最深52cmを測る。出土遺物から、古代の溝と考えられる。

遺物はℓ1から須恵器甕片、ℓ4から須恵器坏と甕片が出土した。

第5節 土 坑

1号土坑 (第6図 図版3-2)(第8図27・28第9図43 図版4-10)

調査区西側A-6グリッドの2号谷で発見した。検出面はLⅡ面、寸法は上面294cm×238cm、底面217cm×156cm、深さは検出面から38cmを測る。平面形は長楕円形を呈し、長軸方向はN7°Eである。断面観察では2層の堆積土が認められ、木炭や炭化物ブロック等の混入が見られることから、人為的に埋められたか、使用により埋没したと考えられる。出土遺物から平安時代のものとする。

土師器坏片資料2点と未成品とみられる石鏃1点を図示したが、他に土師器甕片も出土している。

2号土坑 (第6図 図版3-2)

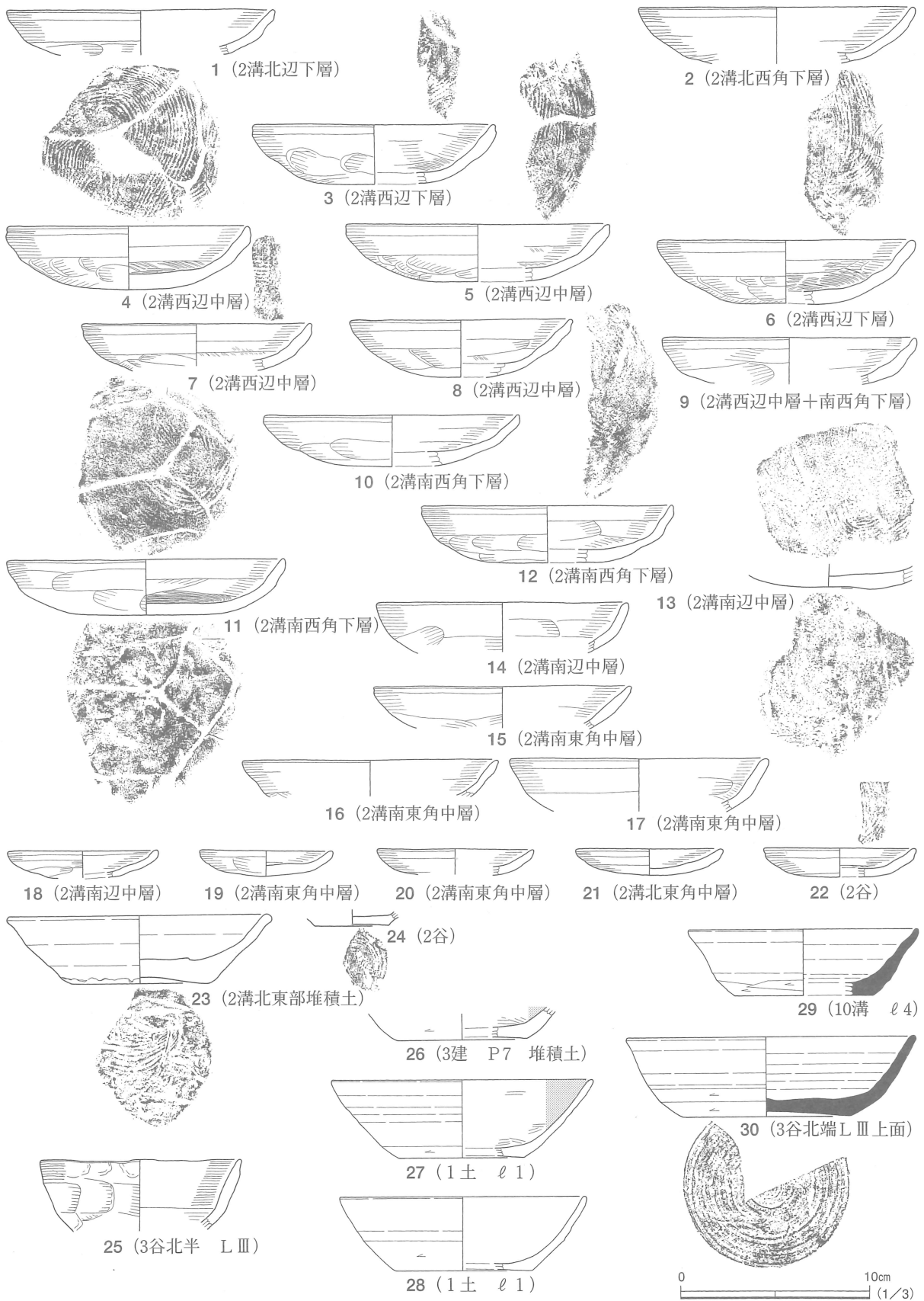
調査区西側O-15グリッドで検出した。検出面は地山面、寸法は上面111cm×68cm、底面74cm×38cm、深さは検出面から22cmを測る。平面形は長楕円形を呈し、長軸方向は東西である。断面観察では1層の堆積土が認められ、粘土ブロックの混入が見られることから、人為的に埋められたと考えられる。2号掘立柱建物跡P.2を切ることから古代以降の時期に属すると考える。遺物は出土しなかった。

第6節 ピット

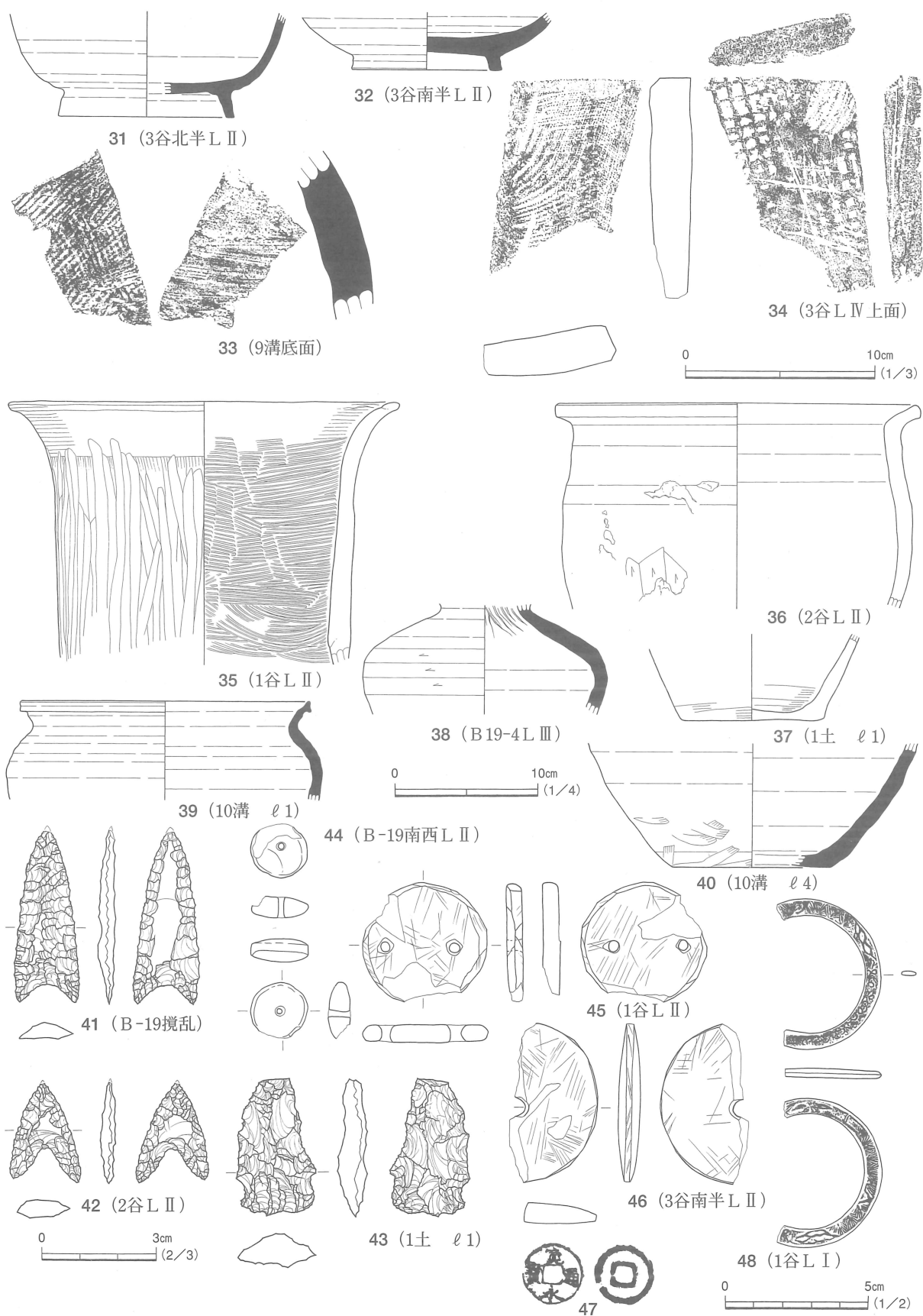
ピットは23基を検出した。

第2表 グリットピット計測表

No.	グリッド	長 径 (cm)	短 径 (cm)	深 さ (cm)	備 考
1	O-12	20	19	14	
2	O-12	34	30	48	
3	A-13	42	18	25	
4	A-13	46	39	31	
5	A-13	22	16	21	
6	A-13	20	17	15	
7	A-13	29	27	32	
8	A-13	27	26	35	
9	O-14	25	24	16	
10	A-14	31	26	15	
11	O-14	24	23	10	
12	O-14	29	26	9	
13	O-14	22	21	14	
14	A-15	23	21	14	
15	A-14	59	59	50	2溝に切られる。
16	A-16	35	30	25	北側が攪乱を受ける。
17	A-16	33	26	25	
18	O-15	41	31	42	
19	O-15	34	27	44	3建P2を切る。
20	O-15	54	34	29	
21	O-15	34	28	27	
22	O-15	32	31	29	
23	—	—	—	31	10溝に切られる。



第8図 出土遺物(1)



第9図 出土遺物(2)

第3表 遺物計測表

	出土場所 層位	種別 器種	残存部位 残存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	調整・特徴
1	2 溝北辺 下層	かわらけ 皿	口縁部 10%	(14.1)	[2.4]	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立ち段状整形。 内外面ナデ。
2	2 溝北西角 下層	かわらけ 皿	口縁～体部 10%	(14.3)	[3.0]	—	淡橙色 精緻	内外面ナデ。
3	2 溝西辺 下層	かわらけ 皿	口縁～底部 20%	(12.8)	3.1	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁著しい段状整形。底～体部内面板状工具調整 後ナデ。
4	2 溝西辺 中層	かわらけ 皿	口縁～底部 75%	(12.8)	3.3	4.8	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立ち段状整形。底～体部内面板状工具調整後 にナデ。底部外面板状圧痕とナデ。
5	2 溝西辺 中層	かわらけ 皿	口縁～底部 25%	(14.0)	3.0	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立ち段状整形。底～体部内面板状工具調整。
6	2 溝西辺 下層	かわらけ 皿	口縁～底部 35%	(13.6)	3.3	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立ち段状整形。底～体部内面板状工具調整。 底部外面板状圧痕とナデ。
7	2 溝西辺 中層	かわらけ 小皿	口縁～底部 10%	(12.0)	2.5	—	橙白色 精緻	口縁端部外縁著しい段状整形。底～体部内面板状工具調整 後ナデ。
8	2 溝西辺 中層	かわらけ 小皿	口縁～底部 10%	(11.8)	3.0	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立ち段状整形。 内外面ナデ。
9	2 溝西辺中層＋ 南西角下層	かわらけ 皿	口縁部 20%	(13.3)	[2.4]	—	淡橙色 精緻	体部内面下端板状工具調整。口縁端部外縁立つ。内外面ナ デ。
10	2 溝南西角 下層	かわらけ 皿	口縁～底部 25%	(13.3)	2.7	—	橙色 精緻	口縁端部外縁立つ。内外面ナデ。
11	2 溝南西角 下層	かわらけ 皿	口縁～底部 70%	(14.5)	2.9	8.3	橙色 やや粗	口縁端部外縁立つ。底～体部内面板状工具調整後にナデ。 底部外面板状圧痕とナデ。閃緑岩粒少混。
12	2 溝南西角 堆積土	かわらけ 皿	口縁～底部 40%	(13.2)	3.0	[1.4]	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立ち段状整形。底～体部内面板状工具調整後 にナデ。底部外面板状圧痕とナデ。
13	2 溝 中層	かわらけ 皿	底部 20%	[9.2]	[1.3]	(5.8)	橙色 やや粗	底部内面板状工具調整後にナデ。底部外面板状圧痕と指圧 痕。閃緑岩粒多混。
14	2 溝南辺 中層	かわらけ 皿	口縁部 20%	(13.2)	[2.6]	—	橙色 精緻	口縁端部外縁段状整形。内外面ナデ。
15	2 溝南東角 中層	かわらけ 皿	口縁部 20%	(13.5)	[2.2]	—	橙色 精緻	口縁端部外縁立つ。内外面ナデ。
16	2 溝南東角 中層	かわらけ 皿	口縁部 5%	(13.5)	[1.9]	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立つ。内外面ナデ。
17	2 溝南東角 中層	かわらけ 皿	口縁部 25%	(13.5)	[2.8]	—	淡橙色 精緻	内外面ナデ。
18	2 溝南辺 中層	かわらけ 小皿	口縁部 20%	(8.0)	[1.4]	—	橙色 精緻	内外面ナデ。
19	2 溝南東角 中層	かわらけ 小皿	口縁部 20%	(7.0)	[1.3]	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立つ。内外面ナデ。
20	2 溝南東角 中層	かわらけ 小皿	口縁部 10%	(8.2)	[1.3]	—	淡橙色 精緻	口縁端部外縁立つ。内外面ナデ。
21	2 溝北東角 中層	かわらけ 小皿	口縁～底部 40%	(7.8)	1.5	(3.4)	橙白色 精緻	内外面丁寧にナデ。
22	51－3 A15 2 谷	かわらけ 小皿	口縁～底部 10%	(8.0)	1.5	(3.2)	淡橙色 精緻	口縁端部外縁著しい段状整形。底～体部内面板状工具調整 後ナデ。
23	2 溝北東部 堆積土	かわらけ 坏	口縁～底部 40%	(14.0)	3.6	(7.2)	橙白色 精緻硬質	回転系切り再調整。内外面ナデ。 体部下端高台状に損上後ナデ。
24	51－3 A15 2 谷	かわらけ 坏	底部 5%	—	[0.8]	(3.9)	橙色 精緻軟質	底部回転系切り。
25	3 谷北半 L Ⅲ	かわらけ 小碗	口縁部 10%	(10.7)	[3.8]	—	橙白色 精緻	内面くすみ。 内外面ナデ。
26	3 号建物跡 P 7	土師器 坏	底～体部下端 5%	—	[1.6]	(6.8)	橙白色 精緻硬質	体部下端回転ヘラズリ再調整。 内面黒色処理。
27	1 号土坑 ℓ 1	土師器 坏	口縁～底部 35%	(13.8)	4.1	(6.6)	淡橙色 精緻硬質	体部下端回転ヘラズリ再調整。 内面黒色処理。
28	1 号土坑 ℓ 1	土師器 坏	口縁～底部 35%	(13.0)	3.9	(7.2)	橙白色 精緻硬質	体部下端回転ヘラズリ再調整。
29	10号溝跡 ℓ 4	須恵器 坏	口縁～底部 35%	(12.0)	3.5	(7.4)	暗橙色 密	底部・体部下端回転ヘラズリ。 断面灰色。
30	3 谷北端＋北半＋ 南端 L Ⅱ＋L Ⅲ	須恵器 坏	口縁～底部	(15.2)	4.3	8.8	暗灰色 密	底部・体部下端回転ヘラズリ再調整。断面暗橙色。
31	3 谷北半 L Ⅱ	須恵器 高台坏	体～底部 10%	—	[5.6]	(9.2)	暗灰色 密	断面暗橙色。 石英長石粒多い。
32	3 谷南半 L Ⅱ	須恵器 坏	胴～底部 5%	—	[3.1]	(8.0)	暗灰色 密	断面暗橙色。
33	51－3 B19 9 溝 底面	須恵器 甕	胴部	—	[8.9]	—	灰色 やや粗	外面タタキ目。内面ナデ。
34	3 谷 L Ⅵ 上面	須恵器質 瓦	軒平瓦 10%	[11.6]	[8.2]	2.1	灰色 密	タタキ目。ヘラ記号。布目。 石英長石粒多い。
35	1 谷 L Ⅱ	土師器 甕	口縁～胴部 15%	(26.8)	[18.2]	—	淡橙色 密	内面ナデ・ハケ目。 外面ナデ・ミガキ。
36	2 谷 L Ⅱ	土師器 甕	口縁～胴部 10%	(24.5)	[14.2]	—	橙色 粗	外面胎土ふくらみ箇所および胎土粉付着あり。
37	1 号土坑 ℓ 1	土師器 甕	胴～底部 10%	—	[6.0]	9.9	橙色 粗	胴部下端ナデ。 石英長石粒多い。
38	B19南東 L Ⅲ	須恵器 長頸瓶	胴部 15%	—	[7.6]	—	暗灰色 密	断面暗橙色。 胴部最大径 (16.8)
39	10号溝跡 ℓ 1	須恵器 甕	口縁～胴部 25%	(19.8)	[6.8]	—	暗灰色 密	断面暗橙色。 石英長石粒多い。
40	10号溝跡 ℓ 4	須恵器 甕	胴～底部 10%	—	[8.5]	(11.0)	暗灰色 密	断面暗橙色。 石英長石粒多い。
41	51－3 B19 攪乱	石製品 石鏝	99%	最大長 4.6	最大幅 1.7	最大厚 0.5	淡灰茶色 頁岩	凹基無茎 重さ3.2 g
42	51－3 A16 2 谷 L Ⅱ	石製品 石鏝	100%	最大長 2.6	最大幅 1.9	最大厚 0.5	淡黒茶色 頁岩	凹基無茎 重さ1.5 g
43	1 号土坑 ℓ 1	石製品 石鏝	100%	最大長 3.6	最大幅 2.1	最大厚 0.85	透明 石英	未成品 重さ6.2 g
44	B19南西 L Ⅱ	土製品 土玉	80%	最大径 2	最大厚 0.75	重さ 2.5 g	橙色 密	中心穿孔径 0.2 断面算盤玉形
45	1 谷 L Ⅱ	石製品 模造品	80%	最大長 [4.1]	最大幅 4.3	最大厚 0.6	淡緑青色 凝灰岩	穿孔2箇所 径 0.3 0.35 重さ 18.6 g 全体に研磨平滑。
46	3 谷南半西側 L Ⅲ	石製品 模造品	50%	最大長 [5.5]	最大幅 [2.9]	最大厚 0.7	淡緑青色 凝灰岩	穿孔1箇所 径 0.7 重さ 18.0 g 全体に研磨平滑。
47	51－3 A14 攪乱	金属製品 銅銭	99%	最大径 2.2	最大内径 0.6	最大厚 0.1	黒灰色 緑青僅少	サシ銭の一枚? 薄い。
48	1 谷 L I	金属製品 環状鉄製品	55%	最大長 [5.2]	最大幅 0.6	最大厚 0.3	鉄黒色 鍍鉄	蚊帳吊金具。断面長楕円形。 歪あり。

※(推計値)[残存値]

第7節 遺物

出土遺物は土師器の坏20点・甕21点・筒形土器1点、須恵器の坏6点・高台付坏4点・甕14点・長頸瓶5点・瓦1点、かわらけ25点、石器3点、土製品1点、石製模造品2点、銭1点、金属製品1点、陶器1点などと接合不能資料天箱3箱分であり、図示できたのはこれらのうちの48点である。

出土遺物で特徴的なのはかわらけであり、図示した25点中の23点が2号溝跡から出土した。製作技法では23を除いた全ての個体が手捏ね成形されて丸底の形状を呈し、法量的には大小の2種類に分かれる。大は口径が概ね13～14cm、体部中位での器壁厚4～7mmで口縁部直下の外面が段状に整形される。小は口径7～8cmで器壁厚5mm、口縁部外面が摘まみ上げられて面取りされるものと、段状に整形される個体がある。大小共に形状と法量では、京・鎌倉・岩手県平泉町でまとまった出土事例のある12～13世紀代のかわらけに類似し、調整でも柳之御所跡出土資料「内底面はササラ状工具でナデる」(杉沢2003P.43)と共通点がある。他方、口縁部形状の整形では異点があり、寧ろ鎌倉市大倉幕府周辺遺跡群(No.49)2区落込み遺構最下層出土資料や同市大倉幕府跡(No.253)第2地点10a～10b面出土資料などに類似個体が認められた。さらに、口縁部形状の特徴について市内馬場小路遺跡19号溝跡出土資料との前後関係を考慮すると、ここでは13世紀前葉を中心とした時期を考えたい。

第8節 まとめ

今回の調査では掘立柱建物跡4棟・柱列6条・溝跡10条・土坑2基を検出した。このうち、方形に巡る2号溝跡はその形状と出土遺物の殆どをかわらけが占めることから、非日常的な空間であったと考えられ、時期的には鎌倉時代前葉が考えられる。また、調査区内を解析する3本の谷から土師器や須恵器が多く出土したため、本遺跡の所在する丘陵の上部には古代の集落の存在が予測できる。

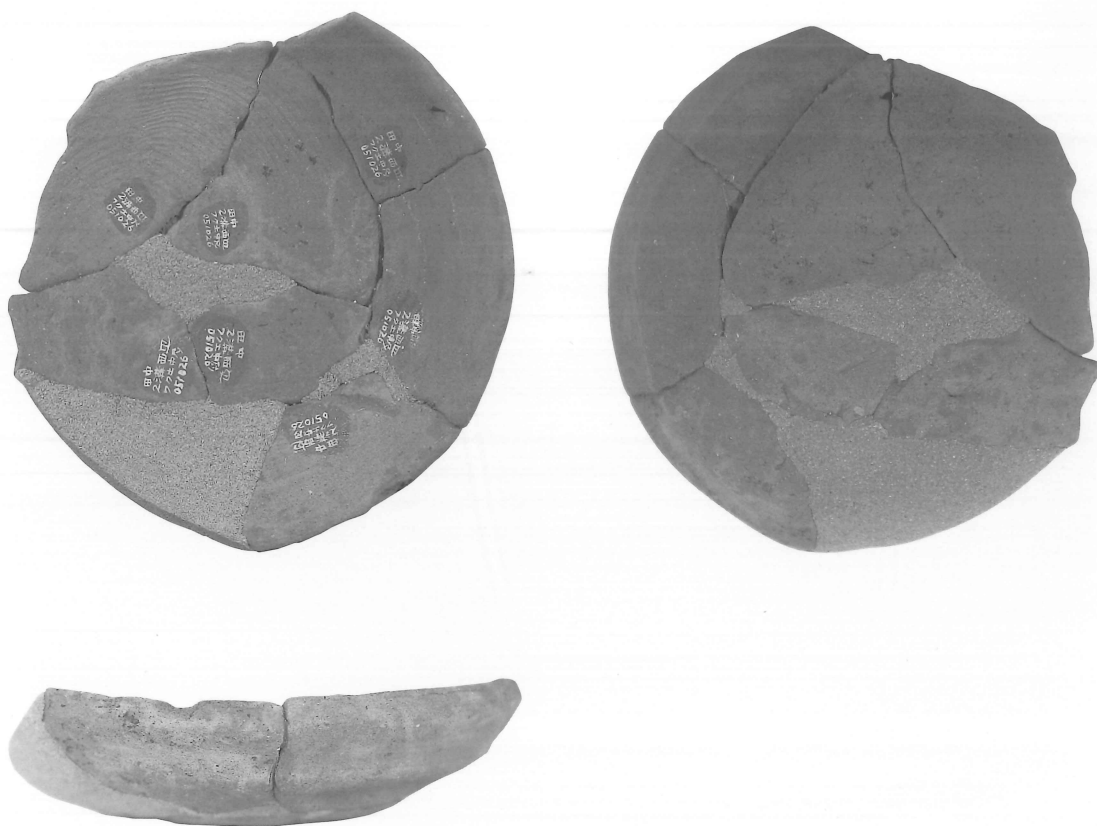
引用・参考文献

- | | | | |
|---------|------|---|-----------------------------|
| 垣内和孝 | 2005 | 「小川後田A遺跡」市道高倉大善寺線新設工事関連 | 郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 |
| 日下政勝 | 2000 | 「中近世の掘立柱建物跡について」『東北地方南部における中近世集落の諸問題』 | 福島県考古学会中近世部会 |
| 小森俊寛 他 | 1996 | 「京都の都市遺跡から出土する土器の編年の研究」『研究紀要第3号』 | (財)京都市埋蔵文化財研究所 |
| 佐藤重幸 他 | 2003 | 「馬場小路遺跡(第2次)」『阿武隈川築堤関連』 | 郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 |
| 佐々木務 他 | 1997 | 「泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書」 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 杉沢昭太郎 他 | 2003 | 「陸奥のかわらけ(3)岩手県」『中世奥羽の土器・陶磁器』 | 東北中世考古学会編 高志書院 |
| 高橋博志 他 | 1993 | 「安子島城跡」『安子島地区土地改良関連発掘調査報告書4』 | 郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 |
| 中山雅弘 他 | 2001 | 「陸奥国における中世前期の土器窯」『中世土器研究論集』 | 中世土器研究会 |
| 原 廣志 他 | 2001 | 「大倉幕府周辺遺跡群」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(平成12年度 第2分冊) | 鎌倉市教育委員会 |
| 羽柴直人 | 2001 | 「柳之御所遺跡の中心建物群について」『紀要XX』 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 平田禎文 | 2003 | 「陸奥のかわらけ(1)福島県」『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院 | 東北中世考古学会 |
| 福島雅儀 他 | 1996 | 「越田和遺跡(第1分冊)」『三春ダム関連遺跡発掘調査報告8』 | 福島県教育委員会・(財)福島県文化センター |
| 福田 誠 他 | 2001 | 鎌倉市二階堂「国指定史跡永福寺跡」遺構編 | 鎌倉市教育委員会 |
| 松本建速 | 1993 | 「柳之御所跡におけるかわらけ存在の意味」 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 馬淵和雄 | 1996 | 「大倉幕府周辺遺跡群」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(平成7年度第2分冊) | 鎌倉市教育委員会 |
| 馬淵和雄 他 | 2005 | 「大倉幕府跡」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(平成16年度第1分冊) | 鎌倉市教育委員会 |

写 真 图 版



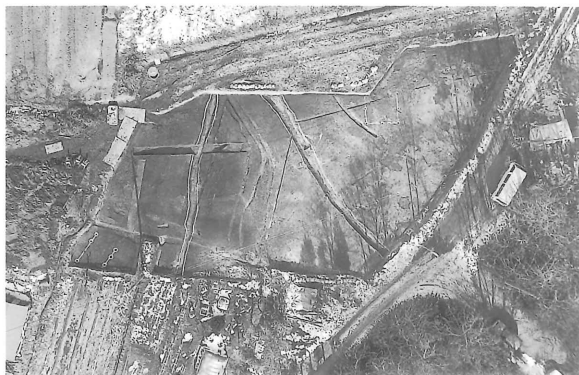
1. 2号溝跡全景（南側より）



2. 2号溝跡出土遺物（第8図4）



1. 調査区西半全景（南側より）



2. 調査区東半全景（南側より）



3. 2号溝跡付近全景（南側より）



4. 3号谷東西断面（南側より）



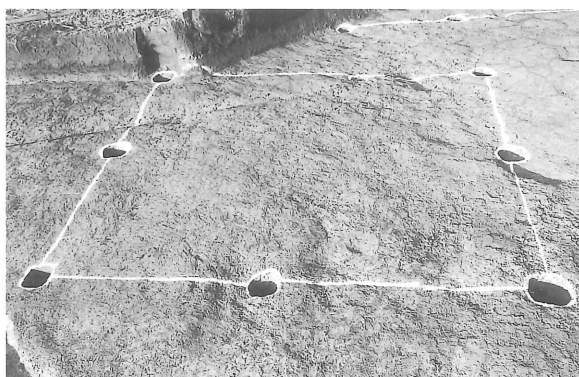
5. 1号掘立柱建物跡全景（南側より）



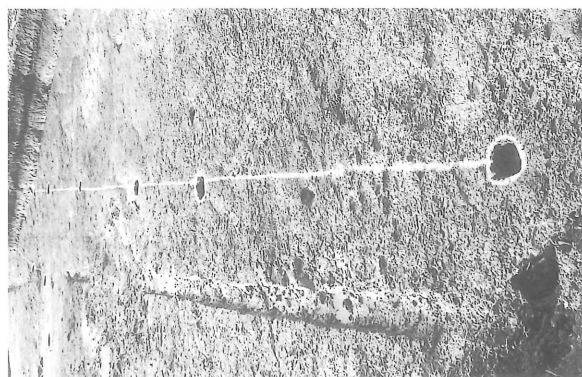
6. 2号掘立柱建物跡全景（南側より）



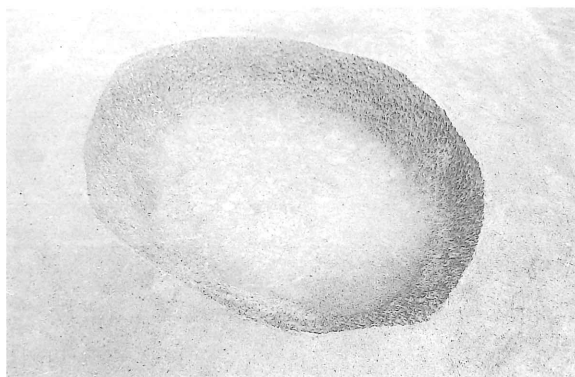
7. 3号掘立柱建物跡全景（南側より）



8. 4号掘立柱建物跡全景（南側より）



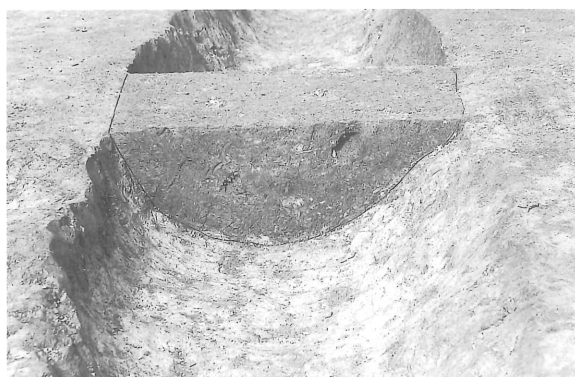
1. 6号柱列全景（東側より）



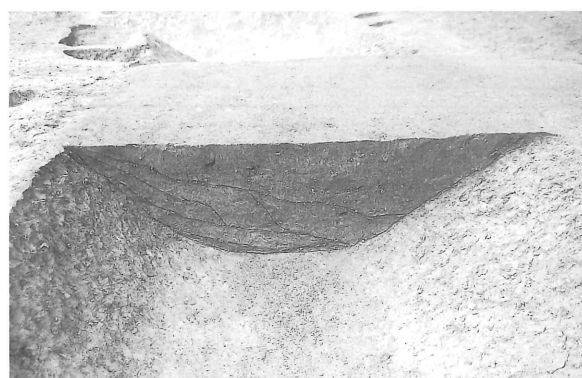
2. 1号土坑全景（南側より）



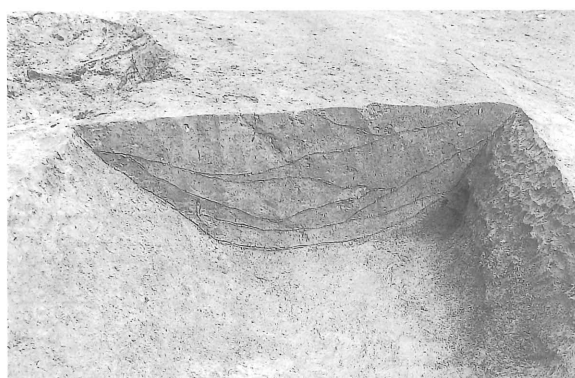
3. 2号溝跡俯瞰（東側より）



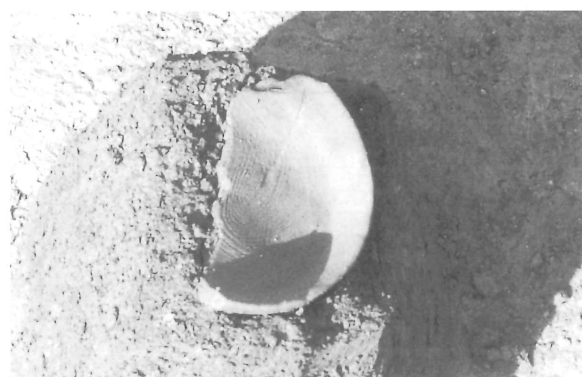
4. 1号溝跡北辺断面（東側より）



5. 2号溝跡西辺断面（南側より）



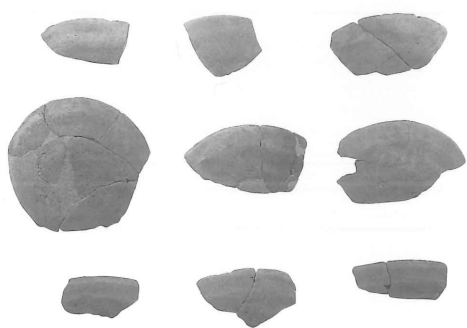
6. 2号溝跡東辺断面（南側より）



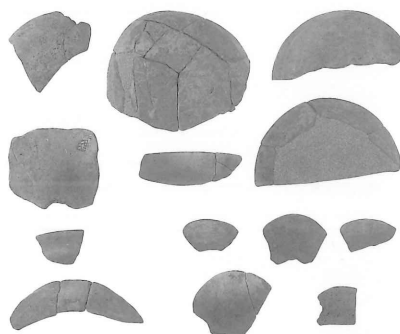
7. 2号溝跡南東角遺物出土状況（南西より）



8. 10号溝跡北端断面（南側より）



1. 出土遺物 (第 8 図 1 ~ 9)



2. 出土遺物 (第 8 図 10 ~ 22)



3. 出土遺物 (第 8 図 6)



5. 出土遺物 (第 8 図 15)



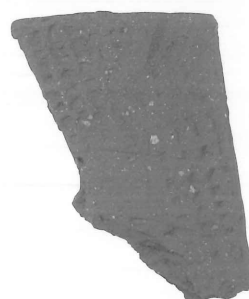
4. 出土遺物 (第 8 図 11)



6. 出土遺物 (第 8 図 21)



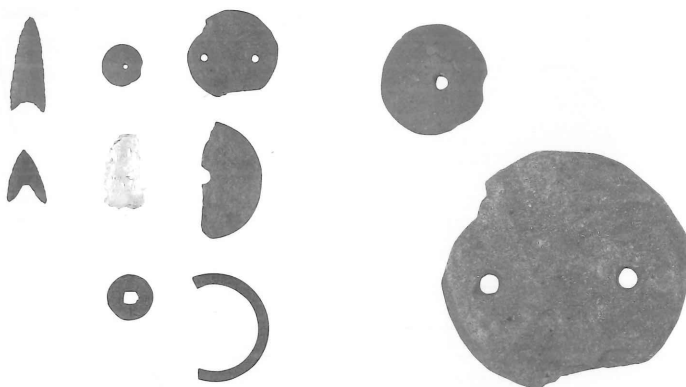
7. 出土遺物 (第 8 図 23)



8. 出土遺物 (第 9 図 34)



9. 出土遺物 (第 9 図 39)



10. 出土遺物 (第 9 図 41 ~ 48)

11. 出土遺物 (第 9 図 44 · 45)

報 告 書 抄 録

ふ り が な		たなか いせき						
書 名		田中遺跡						
副 書 名		市道高倉大善寺線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
巻 次								
シ リ ー ズ 名								
シ リ ー ズ 番号								
編 集 者 名		高橋同仁 日下政勝						
編 集 機 関		財団法人 郡山市文化・学び振興公社 文化財調査研究センター						
所 在 地		〒963－0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番地					TEL024－959－3305	
発 行 機 関		郡山市教育委員会						
所 在 地		〒963－8601 福島県郡山市朝日一丁目23－ 7					TEL024－924－2661	
発 行 年 月 日		平成18年 3 月24日						
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
た な か い せ き 田 中 遺 跡	ふくしまけんこおりやまし た むらまち 福島県郡山市田村町 こがわあざ た な か ち な い 小川字田中地内	07203	20301034	37° 22′ 00″	140° 25′ 40″	20051010 } 20060124	2,352㎡	市道高倉大善寺 線道路改築事業
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項
田中遺跡	集 落	古代 中世		建物跡 4 棟 柱列 6 条 溝跡 10条 土坑 2 基 ピット 23基		土師器、須恵器、かわらけ、石製模造品、石器、銭、金属製品		13世紀前葉を中心とする時期に属するとみられるかわらけが方形に巡る溝跡内からまとまって出土した。

田 中 遺 跡

—発掘調査報告—

発行日	平 成 18 年 3 月 24 日
編 集	財団法人郡山市文化・学び振興公社 文化財調査研究センター 〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番地
発 行	福 島 県 郡 山 市 教 育 委 員 会 〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号
印 刷	株式会社 日 進 堂 印 刷 所 〒960-2194 福島県福島市庄野字柿場1-1

2006

